



季節の行事【節分編】



節分は4回あった？

本来は季節の節目である「立春・立夏・立秋、立冬の前日」のことをいい、年に4回ありました。ところが、旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分は大晦日に相当する大事な日だったそう。そこで、立春前日の節分が重要視され、節分と言えばこの日！となったそうです。



豆知識：今年の節分は2月2日！？

なぜ立春の日がずれるのかというと、日本で平安時代ごろから使われていた「二十四節気」と呼ばれる暦に一年間を当てはめると、少しずつ誤差が出るのだとか。その結果今年も、2月3日が立春にあたるため、その前日の2月2日が節分の日になるそうです。因みに、2月2日になるのは、明治20年以降124年ぶりのことらしいです。



そもそもどんな行事？

節分といえば豆まき・鬼退治ですが、これは「追儺（ついな）」と呼ばれる大晦日(旧暦)に行われていた宮中行事がもとになっているそうです。もとは、農民の豊作を願う気持ちを反映し、畑に豆をまくしぐさを表していたらしいですが、立春前日の節分に行われるようになり、節分の邪気祓い行事として定着したそう。

豆まきについて

豆まきに使用する豆は、炒り豆がいいそうです。スーパーなどで売っている炒り豆を使うと簡単に豆まきができますね。また、豆まきは夜になってから行います。家の戸を開けて「鬼は外！福は内！」と大きな声(今年は感染対策には気をつけてね 🍷)で唱えながら家の外と内に豆をまき、豆をまいたら鬼が入ってこないようにすぐに戸を閉めます。

主な豆まきの仕方は、上に書いた通りですが、地方によってさまざまな豆まきの形があるようです。例えば、北海道～東北、信越地方では、雪の中でも見つけやすいように落花生をまいたり、九州では「鬼はほか」と言ったり、鬼子母神を祭っているところでは「悪魔外」と言ったりすることもあるそうです。興味はある方は、ぜひ詳しく調べてみてください。

節分の行事食

節分と言えば、福豆を年の数だけ食べますが、他にもさまざまな食べ物があるのを知っていますか？



恵方巻

節分に食べる太巻き寿司です。縁起良く七福神にちなんで7種類の具を入れた太巻き寿司で、それを切らずに無言で一気に食べます。また、この時に、その年の縁起の良い方角で年神様がいらっしゃる方角(恵方)を向いて丸かじりすると、願いが叶い、無病息災や商売繁盛をもたらすとされています。因みに今年の恵方は「南南東」です。



福茶

「おめでたい」の梅、「喜ぶ」の昆布、「まめまめしく」の豆がそろった縁起物で、豆は3粒だけ入れます。節分の豆を年の数だけ食べられなかったとしても、福茶がその代わりになります。

いわし料理

鬼(災い)が入ってこないようにするおまじないとして終りに焼いたいわしの頭を刺して飾る「焼嗅(やいかがし)」があります。それにちなんで、いわし料理を食べる風習などもあります。